



平田の妙見社

益城の文化財

平田の妙見社

—平田—

平田地区の中ほど、木山川に架かる「第二平田橋」の約150m東側に、地域の人たちから「妙見サン」と呼ばれる「妙見社」があります。

「妙見社」とは、「妙見尊星王（北辰妙見菩薩）」を祀る神社で、北斗七星に祈願し、五穀豊穡を願います。「平田の妙見社」は、平田の名主層の津留平太夫が応永元（1394）年以前に自家の氏神としていたものを、地域の人々の氏神としたもので、村氏神成立の典型的形態をしている神社といわれています。祀られている祭神は「石」です。昭和30年代頃までは「神殿」と「拜殿」がありましたが、「拜殿」は老朽化のため解体。現在は「神殿」のみが残されています。

以前は干ばつの被害が大きく、雨乞いのための「雨願立て」などの祭事が行われていましたが、現在は農地の基盤整備に伴い灌漑施設や用水路が整備されたので、雨乞いの必要性がなくなり、これらの祭事は次第に衰退していきました。毎年9月18日が座祭りで、早朝から集まった氏子により境内の大掃除やしめ縄を張り替えて、津森神宮の宮司を招いて神事がとりおこなわれます。氏子のみなさんは地区の絆を守っていくために長く続けたいといっておられます。

参考文献『益城町史 通史編』

益城町文化財保護委員会

【訂正とお詫び】 8月号の「益城の文化財」で、誤りがありましたので、訂正します。

●「れんが」（煉瓦）

◎「棟瓦」

俳句

早川宏次 選

宮の森無数の穴は蟬の技
蚊帳の中母の団扇で眠った日
ホーズギの夜市に孫と浴衣かな
炎天に積乱雲の七変化
山越えて入道雲の湧き立ちぬ
がんぐろに負けず劣らず日焼けして
むし暑さ台風模様のしめり風
眠らせぬ五輪終りて白の月

惣領 小森英美子
安永 川崎 節子
惣領 阪口 基明
木山 増岡 伸禰
広崎 松原まゆみ
惣領 阪口由美子
惣領 新居 露子
下陳 城 陶子

狂句

田上富岳 選

もうぼつぼつ 窓際族の仲間入り
もうぼつぼつ 早や目早や目にしなっせよ
もうぼつぼつ 年齢も九十か悔いは無か
もうぼつぼつ 嫁のお産の待ち長か
もうぼつぼつ 唾つけとかしきや嫁る
もうぼつぼつ 金肥まぜくり土つくり
間に合わん 韓ドラばかり見とられん
間に合わん 客は膳前すわつとる
間に合わん 交通渋滞まき込まれ
間に合わん 超安産でひっと出た

惣領 阪口 基明
安永 井藤 吉郎
下陳 山田 凡骨
惣領 小森英美子
宮園 岩本よろこ
木山 増岡 酔粋
広崎 松原まゆみ
惣領 新居 露子
馬水 日高 延喜
惣領 小森英美子

狂句次号の課題 「出し惜しみ」待ったなし」

投稿は役場広報係まで。

投稿締切日は毎月15日です（当日必着）。

※数種に投稿される場合は、別にお送りください。